



時代を築かれた方々のご冥福をお祈り申し上げます。

おしらせ

看護師とメディカルのためのFIM講習会

基礎編・応用編 (平成26年7月13日/12月14日)
杏林大学・NPO法人東京多摩リハビリ・ネット共催)

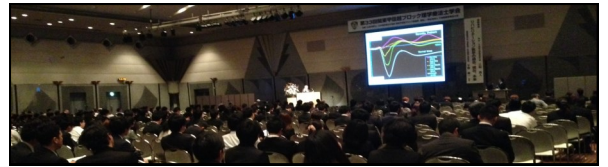
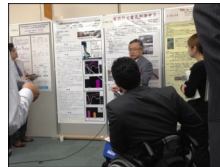
第13回基礎編211名 第4回応用編66名 第14回基礎編207名 第5回応用編63名 参加。
今回は平成27年7月開催(予定) お早目に申し込み下さい。



学会報告 平成26年1月以降

第51回日本リハビリテーション医学会 名古屋 2014年6月5~7日 総参加者約4000名 左下写真

当法人関係者より多数の発表がありました。テーマは、足関節屈筋痙縮測定装置によるボツリヌス治療評価、電極針と電気刺激装置、人工膝関節置換術後の立位バランスに及ぼす加齢の影響、嚥下食対応一覧表による栄養管理、日本語版BESTest(バランス評価)の開発、左麻痺者の社会適応、シーティングFIMによる効果判定、Fugl-Meyer Assessmentを用いたボツリヌス治療後リハビリテーション、在宅療養者の摂食嚥下能力・状況、痙性斜頸と筋電図バイオフィードバックまで多岐に亘りました。米リハ医学会AAPMR発表時に訪問しお世話頂いたIgo Krebs MIT教授 による特別講演“present and Future of Rehabilitation Robotics”の座長を千野センター長が務めました。
(千野(2題)、今村、野本、大高、荒尾、石濱、金森、山本の各氏、門馬(非常勤)、村岡顧問:早稲田大より発表)



第33回関東甲信越ブロック理学療法士学会 幕張 10月25・26日 総参加者約2000名 右上写真

千野センター長が、「リハビリ医学の過去、現在、未来」と題した大会基調講演を行いました。
「上下肢痙縮のボツリヌス治療とリハビリ」(ランチョンセミナー)を千野・石濱により講演(参加者500名)。
関連文献 千野直一:リハビリテーション医学の専門性を求めて—物理学とiPS細胞、リハビリテーション医学 51(6)、337-342、2014。
石濱裕規、都丸哲也他:下肢ボツリヌス治療とリハビリテーション、POアカデミージャーナル、22(2)、211-126、2014。

第3回多摩痙縮ボツリヌス療法講演会 (10月31日 立川 参加者約130名 座長:杏林大 岡島康友先生)

ボツリヌス治療後リハビリテーションについて、永生クリニックの岩谷・金森が重度四肢麻痺者事例、下肢機能改善事例を、講師として報告した。特別講演をされた東海大医学部の正門由久教授とも活発な意見交換がなされました。

- 第49回日本理学療法学会** (2014年5月30日-6月1日 神奈川)
障害者と健常者の幸福度、バルーン椎体形成術後のADL、椎体変化、療養病棟患者における上腕・下腿周径と立位・歩行能力及び移乗動作能力との関係、当法人スタッフの地域包括ケアシステムの理解、八王子市バドミントンのメディカルサポートをテーマに計7題発表(荒尾、稲川、笹井、角谷、柳川、三宅、宮武)。
- 第18回世界作業療法士連盟大会・第48回日本作業療法学会** (6月18日-21日 神奈川)
わが国の回復期リハビリテーションにおける作業療法の目的と効果に関するレビューの発表(中本)。
- 第15回日本語聴覚学会** (6月28-29日 埼玉)
脳損傷後の主婦役割獲得症例、失語症例へのAAC導入事例、単語と短文の書字能力に解離がみられた症例、地域言語聴覚士市民団体による市民公開講座の開催意義 計4題の発表(鈴木、野内、原田、山本)。
学会シンポジウムにて、看護師・保健師の立場から、加藤(在宅総合ケアセンター)がシンポジスト発表。
- 第29回日本リハビリテーション工学カンファレンス** (8月24-27日 広島)
100円ショップ製品による簡易リハビリ機器、車いすデータベースにおける貸与車いす動向を発表(石濱、星本)。
- 第16回日本褥瘡学会** (8月29-30日 名古屋)
褥瘡とサポート医療 ~メディカルスタッフの専門性と連携のあり方~ シンポジスト発表(岩谷)。
- 第30回日本義肢装具学会** (10月18-19日 岡山)
Meet the Mentor: 痙縮とAF0(千野)、脊柱側彎を伴う二分脊椎児へのシーティング(石濱)、上肢スプリングバランスの活用と普及(浅井(非常勤))に関して発表。
- 第44回日本臨床神経生理学学会** (11月19-21日 福岡)
達人に学ぶ: リハビリ医学と電気生理学(千野)。
- 第38回日本高次脳機能障害学会** (11月28-29日 仙台)
呼称、復唱、音読に共通して迂言が観察された症例の平仮名単語音読の経過に関する発表(原田)。
- 第9回東京都病院学会**(2月 東京): 12題発表・シンポジスト(安藤)、**第30回全国デイ・ケア研究大会** (7月 埼玉): 座長(多良)、**第56回全日本病院学会**(9月 福岡): 9題発表・シンポジスト(大沢)、講師(二口)、**第22回日本慢性期医療学会**(11月 熊本): 11題発表・シンポジスト(安藤)、**リハビリテーション・ケア合同研究大会**(11月 長崎): 5題発表 **福祉用具講習会** **第3回南多摩福祉機器展** (11月 八王子) 2題発表(佐藤、高野)・講演(野本)

研究開発センター一定例勉強会

計測機器・物理療法機器の活用 6月1日 参加者70名 法人リハ統括管理部共催

当法人の治療・評価活用実績機器である**重心動揺計**(稲川・笹井)、**NESS・IVES**(金森) **Honda歩行アシスト**(井出)、**E-SAM**(石濱)の操作・活用法を講習した。

物理療法機器 技術講習会 8月29日 参加者40名 協力:フランスペッド株式会社

装着型の低周波電気刺激NESS200/300の技術講習会を開催しました。永生クリニックは同機器による外来リハビリテーションを実施している多摩地域では数少ない施設です。



報告 当センターで開発を進めてきたE-SAM : Electric (Eisei)-Spastic Ankle Measure が、一般医療機器として12月に薬事承認を受けました(販売名:足関節運動テスト E-SAM200 特許第5297516号取得済)。同機器は、現在、全国7大学病院施設の協力のもと、多施設共同研究を実施中です。また、アメリカの名門 Mayo Clinic のJeffrey R. Basford リハ医学教授との研究協力も進んでおります。